

表紙・目次等

権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	長江流域の経済発展 - 中国の市場経済化と地域開発 -
発行年	1993
出版者	アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00018054

アジアの経済圏シリーズ III

長江流域の経済発展

中国の市場経済化と地域開発

丸山伸郎編



アジア経済研究所

アジアの経済圏シリーズ III

長江流域の経済発展

——
中国の市場経済化と地域開発

丸山伸郎編

アジア経済研究所

編者紹介

丸山伸郎 たまのぶ おお

一九四三年 大阪に生まれる。

一九六六年 立教大学経済学部卒業。

一九六六年 アジア経済研究所入所。

一九七〇～七二年 香港中文大学にて客員研究員。

一九八四～八六年 米国ハーバード大学、ジョージワシントン大学にて客員研究員。

一九九一年 アジア経済研究所経済協力調査室長。

(著作)

『中国の工業化と産業技術進歩』、アジア経済研究所、一九八八年。

Industrialization and Technological Development in China,
Institute of Developing Economies, 1990.

(共著)

『中国経済のジレンマ』、有斐閣、一九八三年。

『転機に立つ中国経済』、アジア経済研究所、一九八五年。

『中国の工業化——揺れ動く市場化路線』、アジア経済研究所、一九九一年。

『華南経済圏——開かれた地域主義』、アジア経済研究所、一九九二年。

アジアの経済圏シリーズ III

長江流域の経済発展——中国の市場経済化と地域開発

1993年3月31日発行©

編者

丸山伸郎

発行所

アジア経済研究所

東京都新宿区市谷本村町42

電話 03(3353)4231 (代表)

印刷・製本 コロニー印刷 ISBN4-258-23003-0

落丁・乱丁本はお取替えいたします。

1980年代に華南地域を中心に展開した中国の
対外開放政策は、90年代に入り市場経済への転
換が加速するとともに、中国最大の経済都市で
ある上海へ、その重点を移しつつある。ナショ
ナルプロジェクトとして推進されつつある上海
浦東地区開発計画は、巨大な資源と市場を有す
る長江流域を国際経済とリンクすることで、中
国の経済的景観に大きな転換をもたらす可能性
をもつ。

本書は国内外の資料を駆使し、上海をはじめ
長江流域の経済発展の実態を描き出す。さらに、
中国経済の市場化・国際化の下での地域経済構
造の再編成の行方を展望する。

●本書の構成●

第1部 総 論

第1章 1990年代の地域経済圏の発展方向

第2章 中国の地域開発戦略の課題

第2部 長江デルタ地域経済開発の現状と課題

第1章 上海浦東新区開発の現状と位置づけ

第2章 上海発展の軌跡と開発戦略

第3章 江蘇・浙江の経済成長と発展モデル

第3部 内陸開発の課題

第1章 内陸開発論の系譜

第2章 内陸農業開発の方向

第3章 郷鎮企業の成長と中部経済開発

第4章 西南地域の経済開発

終 章

目次

まえがき

第1部 総論

第1章 一九九〇年代の地域経済圏の発展方向

丸山伸郎……………3

はじめに……………4

第1節 沿海発展戦略の評価……………5

1 経済特区批判……………5

2 国際大循環論……………9

第2節 一九九〇年代の地域開発モデル……………12

1 市場メカニズムと地域開発……………12

2 上海浦東新区開発……………13

3 内陸発展戦略……………14

4 経済開発区の設置……………16

5 外資の業種規制緩和……………17

第3節 国際化のなかの地域経済……………18

1 中国経済近代化と資源制約……………18

2 国際資源依存型の開発体制……………21

3 貿易構造の転換……………22

4 新たな追い風……………25

5 国際的下請け化……………29

おわりに……………31

第2章 中国の地域開発戦略の課題

栗林純夫……………35

はじめに……………36

第1節 中国の地域経済問題……………37

1 地域経済の視点……………37

2 中国の地域経済特性……………38

3 経済発展と地域格差……………40

- 4 地域成長率格差と産業構造不均衡……43
- 5 地域開発戦略の妥当性……48

沿海地域優先発展論の正否／「沿海、沿江、沿境」発展論をめぐる

第2節 長江流域の経済分布……50

- 1 人口と国民所得……50
- 2 産業構造……53
- 3 長江流域の地理特性……56

第3節 地域間経済連携の構図……58

- 1 諸資源の分布状況と産業配置……58
 - 2 各省の輸送構成と鉄道マトリクス……59
 - 3 地域間経済連携の必要性……65
- 第4節 長江流域の経済連携の展望……66
- おわりに……69

第2部 長江デルタ地域経済開発の現状と課題

第1章 上海浦東新区開発の現状と位置づけ

はじめに……………76

第1節 「上海浦東新区開発計画」 決定の背景……………77

1 上海の活性化と再生……………78

2 開放政策の継続……………82

3 特区でない特区……………85

第2節 浦東開発の計画と現状……………89

1 浦東開発戦略の基本構想……………89

2 「五地区・三段階」 開発構想……………91

五地区の開発／三段階の開発／資金調達計画

3 浦東開発の現状……………95

一〇大インフラ整備工事の現状（一九九三年二月現在）／四つの重要開発小区の現状／直接投資の現状

第3節 金融センター形成の条件……………103

1 内外金融機関の進出……………105

2 上海の外貨調整センター……………107

3 上海証券取引所……………109

4 金融センターへの条件……………111

おわりに……………114

第2章 上海発展の軌跡と開発戦略

沢田ゆかり……………119

はじめに……………120

第1節 改革・開放以前の上海……………121

1 租界時代の経済発展……………121

国際貿易港の誕生／多様な産業の発達

2 建国から開放へ……………126

投資の偏向／経済的な地位と機能

第2節 一九八〇年代の上海経済……………132

1 相対的地位の凋落……………132

経済シェアの低下／上海を上回る広東の躍進

2 凋落の要因……………140

古い工業都市としての負担／財政上納の軛

第3節 一九九〇年代の新たな潮流……………147

1 広東から上海への重点移行……………147

2 発展の方向……………149

第3章 江蘇・浙江の経済成長と発展モデル

吳軍華……………157

はじめに……………158

第1節 一九八〇年代中国経済成長のリード役……………158

1 発展の初期条件と地域経済発展戦略の展開……………160

発展の初期条件／改革・開放下地域経済発展戦略の展開

2 急上昇する経済的インパクト……………163

第2節 地域経済の成長メカニズム……………164

1 郷鎮企業中心の企業構造……………165

集団所有型郷鎮企業／私的所有型郷鎮企業

2 域内民間資本依存の資本蓄積構造……………170

高生産性農業を主要な蓄積源とする郷鎮企業／出稼ぎ送金を主要な蓄積源とする郷

鎮企業／域内民間資金にもとづく拡大

3 加工産業中心の産業構造……………176

4 国内中心の市場構造……………178

5 「江浙モデル」の示唆……………180

第3節 上海とのリンクージと浦東開発……………184

1 経済的リンクージ……………184

2 浦東開発のインパクト……………185

浦東開発と江蘇、浙江の発展戦略／浦東開発の波及効果／今後の課題

第3部 内陸開発の課題

第1章 内陸開発論の系譜

はじめに……………194

第1節 歴史的に形成された内陸地域……………195

第2節 抗日戦争に備える内陸開発論（一九三〇年代）……………201

第3節 西北開発論をめぐる中央と地方（一九三〇年代）……………204

第4節 内陸開発優先論の台頭とその抑制（一九五〇年代）……………207

第5節 先鋭化した内陸開発優先論（一九五〇年代末～七〇年代）……………211

おわりに……………214

久保 亨……………193

第2章 内陸農業開発の方向

はじめに……………222

第1節 長江流域各地域の農業生産の現状……………223

1 下流域（江蘇省、浙江省）……………224

大島 一二……………221

2 中流域（安徽省、江西省、湖北省、湖南省）……………227

3 上流域（四川省、貴州省）……………230

4 長江流域各地域の全般的動向……………231

第2節 各地域の農業投入の現状と課題……………232

第3節 農業（食糧）流通自由化と地域農業……………235

1 食糧過剰と価格自由化……………235

2 流通ルートの自由化……………237

第4節 内地地域の今後の経済開発の方向

——農業部門からの労働力移動を中心に……………238

1 内地地域開発の問題点……………238

2 長江上中流域の経済開発と労働力移動……………239

第3章 郷鎮企業の成長と中部経済開発

廠 善 平……………243

はじめに……………244

第1節 中部経済の構造的特徴……………246

第2節 経済開発と郷鎮企業……………248

1 国民経済における郷鎮企業の位置づけ……………248

2	沿海および中部地域の郷鎮企業とそのインパクト……………	249
---	-----------------------------	-----

就業構造への影響／経済成長への寄与／就業構造と農家所得の関係／生産手段の有状態

第3節	郷鎮企業の成長メカニズム……………	256
-----	-------------------	-----

1	郷鎮企業成長の内的要因……………	256
---	------------------	-----

原始蓄積と資金調達／技術の習得方式／鄉村システムの組織的支援

2	郷鎮企業成長の外部要因……………	264
---	------------------	-----

第4節	中部農村における郷鎮企業成長の可能性……………	265
-----	-------------------------	-----

1	生産要素の調達……………	266
---	--------------	-----

2	社会経済的組織と人的資源……………	268
---	-------------------	-----

3	市場環境……………	271
---	-----------	-----

4	労働力の地域間移動……………	271
---	----------------	-----

おわりに……………	273
-----------	-----

第4章 西南地域の経済開発

はじめに……………	276
-----------	-----

第1節	経済構造の概観……………	277
-----	--------------	-----

終章

1 四川の産業構造……278

低い工業化水準／工業部門の内部構成の偏り

2 四川省経済の二重構造……279

農村の貧困と余剰労働力／三線建設の中心地としての四川省／突出した部門間格差

第2節 四川省の開発過程……284

1 計画経済期（一九四九～七〇年代末）——二重構造の形成……284

復興期・第一次五年計画期（一九四九～五七年）／大躍進期・調整期（一九五八～六四年）／三線建設前期（一九六四～七一年）／三線建設後期（一九七二～七〇年代末）／計画経済期の成長実績

2 経済改革期（一九七〇年代末以降）——経済体制と経済構造の調整……298

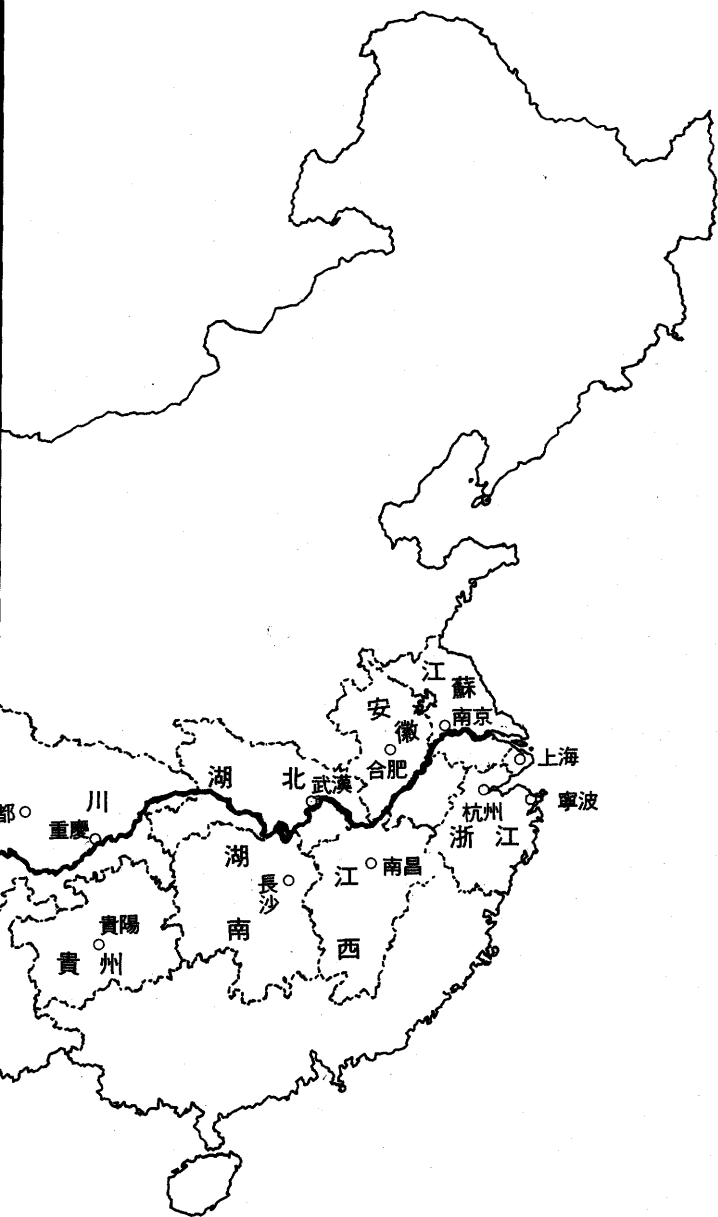
改革初期——農村経済体制改革の開始／都市経済改革の導入／三線企業合理化の困難／四川省における三線企業／経済改革期（一九七〇年代末以降）の成長実績

第3節 四川省開発の展望……304

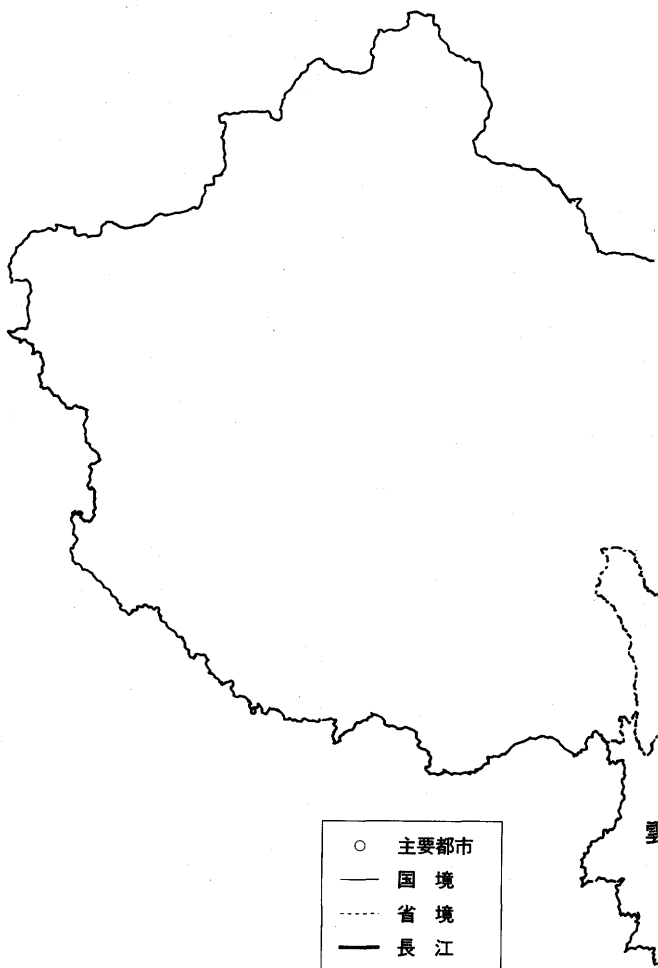
農村開発強化の必要性／三線企業の競争力／中期的な産業選択／今後の展望

高度成長の時代／自由貿易体制／地域間の競争優位

丸山伸郎……317



長江流域の概要





執筆者紹介●（執筆順）

- 丸山伸郎●アジア経済研究所経済協力調査室長
栗林純夫●東京国際大学経済学部助教授
服部健治●日中経済協会企画調整課長
沢田ゆかり●アジア経済研究所経済協力調査室
吳軍華●日本総合研究所調査部
久保亨●信州大学文学部助教授
大島善一●東京農業大学農業経済学部講師
嚴善平●桃山学院大学経済学部講師
今井健一●アジア経済研究所経済協力調査室

アジアの経済圏シリーズについて

アジア経済研究所経済協力調査室では、昭和六十一年度から五年間にわたって、アジア各国・地域の工業化の実態と今後の可能性を探る「アジア工業化展望総合研究」を実施してきました。その成果はすでに「アジア工業化シリーズ」(全十五冊)として公刊され、好評を博しております。

「アジア工業化展望総合研究」が実施された八〇年代後半には、アジア地域の工業化の進展を示す新たな傾向として、この地域における経済的相互依存関係が急速に高まる様相を呈しており、これは、地理的に隣接していながらこれまで種々の条件により経済的結びつきが必ずしも強くなかった国・地域の間で、局地的な地域経済圏の形成を目指す動きとして表れてきています。こうした動きは、地域間の分業の展開を通じて域内諸国の経済発展を促進するだけでなく、世界経済に対しても積極的な影響を与える可能性をもっております。

こうしたことから、経済協力調査室では、平成三年度よりアジア工業化展望総合研究の一環として、新たに「アジア経済圏研究」を実施し、その成果を「アジアの経済圏シリーズ」として公刊を開始することとなりました。このシリーズでは、昨今注目されているアジア地域内の地域経済圏について、最新データに基づく域内各国・地域の経済発展および対外関係の分析を通じて、経済圏の実態、今後の発展可能性および予想される方向について検討を加えます。三年度にわたって、年度ごとに二冊の報告書を公刊する予定です。

各位のご愛読が頂ければ幸甚です。

平成四年 春

アジア経済研究所長 宗像善俊